

規制庁：火山灰の空气中濃度は



「非常に不確かさが大きい」「24時間で来るのか、一気に来てしまうのか」

高浜3・4、大飯3・4では保安規定の審査で詳細に検討

老朽原発（美浜3・高浜1・2）では詳細な検討なし

美浜3号の火山灰対策

降灰継続時間（現行24時間）を約20時間で評価すれば
非常用ディーゼル発電機のフィルタ交換は間に合わない

6月23日の原子炉起動を中止し、火山灰審査をやり直せ

	目詰まりまでの時間	フィルタ取替	フィルタ清掃	フィルタ交換
降灰時間 24 時間	9 3分	2 0分	6 0分	間に合う
降灰時間約 20 時間	8 0分を割り込む	2 0分	6 0分	間に合わない

（フィルタ目詰まりと降灰時間）

2021. 6. 1 美浜の会

関西電力は6月23日に、国内初となる40年超え老朽原発美浜3号の原子炉起動を強行しようとしている。しかし、美浜3号の火山灰対策には重大な問題がある。例えば、高浜3・4号、大飯3・4号と同様に、非常用ディーゼル発電機のフィルタ（着脱式の改良型フィルタ）の交換が間に合わず、火山灰によりフィルタが目詰まりし、全電源喪失となる危険性がある。

原子力規制委員会は5月19日、関電の全原発の火山灰層厚評価をこれまでの10cmから引き上げ、美浜3号は22cmで設置変更を許可した。フィルタ交換が間に合うかは、高浜3・4号と大飯3・4号については設置変更許可の段階ではなく、後の保安規定の審査で確認するとした。ところが、40年超えの美浜3号と高浜1・2号は、設置変更許可の段階で、フィルタ交換が成り立つと評価したため、保安規定の審査は不要としてしまった。

しかし、この評価は、以下に示すように、火山灰の空气中濃度によって変わってくる。事実、設置変更を許可した5月19日の規制委員会の会合で、空气中の火山灰濃度、すなわち降灰継続時間は「非常に不確かさが大きい」と規制庁は認めている。関電の評価と規制委の許可は、22cm降り積もるまでの時間（降灰継続時間）を24時間と想定し、火山灰の空气中濃度を設定している。しかし、これより短くなれば、それに応じて火山灰の空气中濃度が高くなり、フィルタが目詰まりするまでの時間は短くなる。降灰継続時間を約20時間と評価すれば、フィルタ交換に必要な80分を割り込んでしまい、フィルタは目詰まりし、非常用ディーゼル発電機は使えなくなる。福島原発事故と同様の大事故の危険がある。

しかし、このような検討はなされていない。規制委は美浜3号の設置変更許可を撤回し、審査をやり直すべきだ。



